

四 半 期 報 告 書

(第39期第2四半期)

自 2023年4月1日
至 2023年6月30日

日本たばこ産業株式会社

(E00492)

目 次

表 紙	頁
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	8
第3 提出会社の状況	9
1 株式等の状況	9
(1) 株式の総数等	9
(2) 新株予約権等の状況	9
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	9
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	9
(5) 大株主の状況	10
(6) 議決権の状況	11
2 役員の状況	11
第4 経理の状況	12
1 要約四半期連結財務諸表	13
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	13
(2) 要約四半期連結損益計算書	15
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	17
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	19
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	23
2 その他	46
第二部 提出会社の保証会社等の情報	47

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年7月31日
【四半期会計期間】	第39期第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	日本たばこ産業株式会社
【英訳名】	JAPAN TOBACCO INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 寺島 正道
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
【電話番号】	03（6636）2914（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 Chief Financial Officer、Corporate Communications担当 加藤 信也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
【電話番号】	03（6636）2914（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 Chief Financial Officer、Corporate Communications担当 加藤 信也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第2四半期 連結累計期間	第39期 第2四半期 連結累計期間	第38期
会計期間	自2022年 1月1日 至2022年 6月30日	自2023年 1月1日 至2023年 6月30日	自2022年 1月1日 至2022年 12月31日
売上収益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	1,266,828 (685,323)	1,392,812 (727,534)	2,657,832
税引前四半期利益又は税引前利益 (百万円)	360,985	373,430	593,450
四半期(当期)利益 (百万円)	265,004	288,462	444,174
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	264,063 (139,953)	287,009 (142,325)	442,716
四半期(当期)包括利益 (百万円)	1,002,901	535,212	998,229
資本合計 (百万円)	3,754,629	3,949,717	3,616,761
資産合計 (百万円)	6,648,864	6,974,355	6,548,078
基本的1株当たり四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	148.80 (78.86)	161.70 (80.18)	249.45
希薄化後1株当たり四半期(当期)利益 (円)	148.74	161.65	249.36
親会社所有者帰属持分比率 (%)	55.30	55.46	54.07
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	110,184	206,860	483,799
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△38,837	△102,651	△101,822
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△158,153	△163,303	△306,176
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	748,696	827,220	866,885

(注) 1. 当社グループは、国際会計基準(以下「IFRS」という)に基づいて連結財務諸表を作成しております。

2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

3. 百万円未満を四捨五入して記載しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社、連結子会社221社及び持分法適用会社15社)が営む事業の内容について、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

また、主な関係会社における異動もありません。

なお、ジェイティエンジニアリング(株)については、2023年4月に清算を予定しておりましたが、2024年度に変更しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

当社グループは、ロシア市場において、国内外におけるあらゆる制裁措置・規制等を順守した上で事業運営を継続しております。事態の長期化・複雑化により、安定的かつ持続的な事業運営に著しい支障が生じる蓋然性を踏まえ、ロシア市場におけるたばこ事業の運営のあり方について、当社グループ経営からの分離を含めた選択肢の検討を継続しております。現時点においては、今後の見通しや業績への影響については合理的に見積ることができません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

経営者の視点による経営成績等の状況に関する主な注記は以下のとおりです。
なお、以下、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において判断したものです。

(非GAAP指標について)

当社グループは、当社が適用する会計基準であるIFRSにおいて定義されていない非GAAP指標を追加的に開示しております。非GAAP指標は、当社グループが中長期的に持続的な成長を目指す上で、各事業運営の業績を把握するために経営管理にも利用している指標であり、財務諸表の利用者が当社グループの業績を評価する上でも、有用な情報であると考えております。

調整後営業利益

営業利益（損失）から買収に伴い生じた無形資産に係る償却費、調整項目（収益及び費用）を除いた調整後営業利益を開示しております。調整項目（収益及び費用）はのれんの減損損失、リストラクチャリング収益及び費用等です。

また、為替一定ベースの調整後営業利益の成長率も追加的に開示しております。当社グループは、為替一定ベースの調整後営業利益の成長率における、中長期に亘る年平均mid to high single digit成長を全社利益目標としており、その達成を目指してまいります。

為替一定ベース

為替一定ベースとは、たばこ事業における当期の自社たばこ製品売上収益又は調整後営業利益から、前年同期の為替レートをを用いて換算・算出した為替影響を除いた指標です。為替一定ベースの実績は、一定の方法を用いて算出した一部市場のインフレに伴う売上又は利益の増加分を除いております。

自社たばこ製品売上収益

たばこ事業においては、自社たばこ製品に係る売上収益を開示しております。自社たばこ製品売上収益には、物流事業及び製造受託等に係る売上収益は含まれておりません。

(超インフレの調整について)

当社グループは、超インフレ経済下にある子会社の財務諸表について、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、会計上の調整を加えております。

(RRPについて)

RRPは、加熱式たばこ及びE-Vapor製品等、喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品（Reduced-Risk Products）を指しております。

加熱式たばこは、たばこ葉を使用し、たばこ葉を燃焼させずに、加熱等によって発生するたばこペーパー（たばこ葉由来の成分を含む蒸気）を愉しむ製品です。当社製品ポートフォリオでは、高温加熱型のHeated tobacco sticks（HTS）、低温加熱型のInfused-tobacco capsules（Infused）があります。

一方、E-Vapor製品は、たばこ葉を使用せず、装置内もしくは専用カートリッジ内のリキッド（液体）を電気加熱させ、発生するペーパー（蒸気）を愉しむ製品です。

経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容は以下のとおりです。

(1) 経営成績の状況

① 全社実績

(単位：億円)

	2022年12月期 第2四半期 連結累計期間	2023年12月期 第2四半期 連結累計期間	増減率
売上収益	12,668	13,928	9.9%
調整後営業利益	4,149	4,428	6.7%
営業利益	3,830	4,136	8.0%
四半期利益（親会社所有者帰属）	2,641	2,870	8.7%

<売上収益>

売上収益は、たばこ事業及び医薬事業での増収に加えて、円安によるポジティブな為替影響により、前年同期比9.9%増の1兆3,928億円となりました。為替一定ベースのcore revenue^(注1)は、前年同期比6.8%増となりました。

<調整後営業利益>

為替一定ベースの調整後営業利益は、すべての事業での増加により、前年同期比4.7%増となりました。為替影響を含めた調整後営業利益は、たばこ事業における円安によるポジティブな為替影響により、前年同期比6.7%増の4,428億円となりました。

<営業利益>

営業利益は、調整後営業利益の増益等により、前年同期比8.0%増の4,136億円となりました。

<親会社の所有者に帰属する四半期利益>

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、金融費用が悪化したものの、営業利益の増益及び法人所得税費用の減少等により、前年同期比8.7%増の2,870億円となりました。

(注1) 為替一定ベースのcore revenueは、為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益、医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益の合計。

② セグメント別実績

[たばこ事業]

(単位：億本、億円)

たばこ事業	2022年12月期 第2四半期 連結累計期間	2023年12月期 第2四半期 連結累計期間	増減率
総販売数量	2,628	2,693	2.5%
Combustibles販売数量 ^(注1)	2,587	2,652	2.5%
RRP販売数量 ^(注2)	40	42	3.9%
自社たばこ製品売上収益	11,053	12,172	10.1%
調整後営業利益	4,251	4,502	5.9%

<総販売数量>^(注3)^(注4)

総販売数量は、Western Europeにおける総需要の減少があったものの、Asia及びEMAにおける継続的なシェア伸張や一部市場における総需要の増加により、前年同期比2.5%増の2,693億本となりました。Combustibles販売数量は、Asia及びEMAにおける増加により、前年同期比2.5%増となりました。RRP販売数量は、主に日本における継続的なHTSカテゴリ内のシェア伸張及び新たな市場での投入により、前年同期比3.9%増となりました。市場シェアは、主要市場であるイタリア、スペイン、台湾、日本、フィリピン、ロシアを含めた様々な市場で伸張しました。

<自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益>

自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益は、Asia及びEMAにおける継続的なシェア伸張、EMA及びWestern Europeを中心とした単価上昇効果及びポジティブな為替影響等により、それぞれ前年同期比10.1%増、5.9%増となりました。RRP関連売上収益^(注2)は、前年同期比0.8%増の395億円となりました。

為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益は、それぞれ前年同期比6.8%増、3.9%増となりました。

(注1) 製造受託/水たばこ/加熱式たばこ/無煙たばこ/E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品。

(注2) RRP販売数量にはデバイス・関連アクセサリ等は含まれておりませんが、RRP関連売上収益にはデバイス・関連アクセサリ等に係る売上収益が含まれております。

(注3) 総需要及び市場シェアは当社推計です。

(注4) たばこ事業セグメントについては、3つのクラスター (Asia、Western Europe、EMA) に区分けしております。Asiaは日本を含むアジア全域、Western Europeは西欧地域、EMAはアフリカ、中近東、東欧、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場を含んでおります。Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイタリア、英国、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。詳細は、「第4 経理の状況 1. 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記5. 事業セグメント (2) セグメント収益及び業績」をご参照ください。

〔医薬事業〕

(単位：億円)

医薬事業	2022年12月期 第2四半期 連結累計期間	2023年12月期 第2四半期 連結累計期間	増減率
売上収益	393	477	21.3%
調整後営業利益	49	100	106.5%

＜売上収益及び調整後営業利益＞

売上収益は、導出品のライセンス契約に係る一時金収入及び当社の連結子会社である鳥居薬品株式会社の増収により、前年同期比21.3%増となりました。

調整後営業利益は、研究開発費の増加があったものの、売上収益の増収により、前年同期比106.5%増となりました。

〔加工食品事業〕

(単位：億円)

加工食品事業	2022年12月期 第2四半期 連結累計期間	2023年12月期 第2四半期 連結累計期間	増減率
売上収益	735	734	△0.1%
調整後営業利益	14	29	103.5%

＜売上収益及び調整後営業利益＞

売上収益は、ベーカリー事業譲渡による売上収益の剥落があるものの、冷食・常温事業における、前年度及び今年度を実施した価格改定に加えて、外食需要の回復による業務用製品の増収により、前年同期と同水準となりました。

調整後営業利益は、前年度と比較して更なる原材料費や物流費、為替影響の悪化があるものの、前年度及び今年度における価格改定効果や業務用製品の増収により、前年同期比103.5%増となりました。

(2) 財政状態及びキャッシュ・フローの状況

① 財政状態の状況

[資産]

当第2四半期連結会計期間末現在の資産合計は、前年度末に比べ4,263億円増加し、6兆9,744億円となりました。これは、為替影響によるのれんの増加があったこと等によるものです。

[負債]

当第2四半期連結会計期間末現在の負債合計は、前年度末に比べ933億円増加し、3兆246億円となりました。これは、営業債務及びその他の債務の減少があったものの、社債の発行に加え、為替影響による社債の増加があったこと等によるものです。

[資本]

当第2四半期連結会計期間末現在の資本合計は、前年度末に比べ3,330億円増加し、3兆9,497億円となりました。これは、在外営業活動体の換算差額の増加に加え、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上による利益剰余金の増加があったこと等によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末現在の現金及び現金同等物は、前年度末に比べ397億円減少し、8,272億円となりました（前年同期末残高7,487億円）。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、2,069億円の収入（前年同期は1,102億円の収入）となりました。これは、たばこ税及び法人税の支払い、営業債務及びその他の債務の支払い等があったものの、主にたばこ事業による安定したキャッシュ・フローの創出があったこと等によるものです。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、1,027億円の支出（前年同期は388億円の支出）となりました。これは、投資の取得による支出、有形固定資産及び無形資産の取得による支出があったこと等によるものです。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、1,633億円の支出（前年同期は1,582億円の支出）となりました。これは、配当金の支払いがあったこと等によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (5) 経営環境及び全社利益目標達成に向けた基本戦略 iii サステナビリティ戦略」について、以下のとおり見直しを行っております。

iii マテリアリティとサステナビリティ

当社グループの長期的な成長には、事業活動を通じ、社会の発展に貢献していくことが必要不可欠であり、事業と社会のサステナビリティ実現に向けた取り組みは、従来から経営の根幹をなすものと考えています。自然や社会と人の暮らしはつながっており、自然や社会の持続性があるのはじめて人の暮らしや企業の活動も持続的となるという考えのもと、4Sモデルの追求を経営理念とするJTグループとして、JT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、5つの課題群をJT Group Materialityとして策定しました。JT Group Materialityを踏まえ、全社および事業ごとのサステナビリティの取り組み目標についての見直しを今後実施していくとともに、グループ全体で推進力を持って取り組むことで、事業と社会の持続的な成長を目指してまいります。

<JT Group Materiality>

自然や社会と人の暮らしはつながっており、自然や社会が持続可能であるのはじめて、人の暮らしや企業の活動も持続可能となります。

JTグループはJT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、以下のマテリアリティ（重要課題）に取り組んでいきます。

自然との共生	お客様の期待を超える価値創造	人財への投資と成長機会の提供	責任あるサプライチェーンマネジメント	良質なガバナンス
自然環境に与える影響の改善に向けた取り組みを通じて、自然と人や企業の健全な関係性を保全	お客様の期待を超える多様な製品・サービスを創出	人財の多様性に着目した成長支援を含む人財への投資や、多様な個性がその能力を最大限発揮できる組織風土の醸成を通じた人的資本の拡充	人権尊重や自然環境保全など多様化する社会課題への適切な対応を通じ、事業環境の急激な変化に耐えうる持続可能なサプライチェーンを構築	さまざまなステークホルダーの満足度を高め、信頼される企業体であり続けるためのガバナンスの充実
<ul style="list-style-type: none"> 気候変動影響の緩和や自然環境保全への取り組み強化 資源循環への取組推進や環境価値の高いサステナブルな製品開発 	<ul style="list-style-type: none"> 画期的な製品・サービスの開発、製品を楽しむ多様な機会の提供 リスク低減製（RRP）の開発・提供 画期的なオリジナル新薬の創出 多様化するお客様の価値観や関心に対応した食の開発・提供 等 「心の豊かさ」を中心概念とした、研究や未来の事業シーズの探索・創出 	<ul style="list-style-type: none"> 公正かつ安全な職場環境の構築、一人ひとりに即した成長機会の提供及びDE&Iの推進 従業員による社会参画・共創を促す仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 人権・環境デューデリジェンスを通じたサプライヤーとの対話の推進 サプライヤーとの協業による社会課題解決に向けた施策の実行 	<ul style="list-style-type: none"> 透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行う仕組み作りと実践 さまざまなステークホルダーとの積極的な対話の実施

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費は、349億円です。

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資金需要

設備投資、運転資金、外部資源の獲得、借入の返済及び利息の支払い、配当金の支払い、自己株式の取得並びに法人税の支払い等に資金を充当しております。

② 資金の源泉

主として営業活動によるキャッシュ・フロー、金融機関からの借入、社債及びコマーシャル・ペーパーの発行により、必要とする資金を調達しております。

<キャッシュ・フロー>

「(2) 財政状態及びキャッシュ・フローの状況 ②キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

<有利子負債>

(長期負債)

社債(1年内償還予定を含む)は、前年度末現在7,373億円、当第2四半期連結会計期間末現在8,638億円、金融機関からの長期借入金(1年内返済予定を含む)は、前年度末現在1,572億円、当第2四半期連結会計期間末現在1,622億円です。

(短期負債)

金融機関からの短期借入金は、前年度末現在637億円、当第2四半期連結会計期間末現在570億円です。コマーシャル・ペーパーの発行残高はありません。

③ 流動性

当社グループは、従来から営業活動により多額のキャッシュ・フローを得ており、今後も引き続き資金源になると見込んでおります。営業活動によるキャッシュ・フローは今後も安定的で、通常の事業活動における必要資金はまかなえると予想しております。また、当第2四半期連結会計期間末現在、国内・海外の主要な金融機関からのコミットメント融資枠があります。更に、コマーシャル・ペーパープログラム、アンコミットメントベースの融資枠、国内社債発行登録枠及びユーロMTNプログラム等があります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000,000
計	8,000,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年7月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,000,000,000	2,000,000,000	東京証券取引所 プライム市場	(注) 2
計	2,000,000,000	2,000,000,000	—	—

(注) 1. 当社の株式は、日本たばこ産業株式会社法第2条の規定により、当社が発行している株式(株主総会において決議することができる事項の全部について議決権を行使することができないものと定められた種類の株式を除く)の総数の3分の1を超える株式を政府が保有することとされております。

2. 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	2,000,000	—	100,000	—	736,400

(5) 【大株主の状況】

(2023年6月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対 する所有株 式数の割合 (%)
財務大臣	東京都千代田区霞が関三丁目1番1号	666,925,200	37.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	185,009,600	10.42
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	67,969,100	3.83
SMBC日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	41,507,746	2.34
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1776 HERITAGE DRIVE NORTH QUINCY, MA 02171, U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	24,399,741	1.37
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番 10号	18,627,200	1.05
パークレイズ証券株式会社 BNYM (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	東京都港区六本木六丁目10番1号 (東京都千代田区丸の内二丁目7番1 号)	18,088,600	1.02
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY, WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	12,317,033	0.69
JP MORGAN CHASE BANK 385771 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY, WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	11,633,269	0.66
JTグループ社員持株会	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号	11,392,654	0.64
計	—	1,057,870,143	59.60

(注) 上記のほか、自己株式が224,934,347株あります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(2023年6月30日現在)

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 224,934,300	—	(注) 2
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,773,827,300	17,738,273	(注) 2
単元未満株式	普通株式 1,238,400	—	(注) 3
発行済株式総数	2,000,000,000	—	—
総株主の議決権	—	17,738,273	—

- (注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が33,600株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数336個が含まれております。
2. 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。
3. 自己株式が47株含まれております。

② 【自己株式等】

(2023年6月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
日本たばこ産業株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号	224,934,300	—	224,934,300	11.25
計	—	224,934,300	—	224,934,300	11.25

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当第2四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、四半期連結財務諸表規則）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、IAS第34号）に準拠して作成しております。

また、要約四半期連結財務諸表は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

	注記	前年度	当第2四半期
		(2022年12月31日)	(2023年6月30日)
		百万円	百万円
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	6	866,885	827,220
営業債権及びその他の債権		477,239	561,812
棚卸資産		691,906	772,302
その他の金融資産		37,677	83,317
その他の流動資産		649,181	657,782
小計		2,722,889	2,902,434
売却目的で保有する資産		702	1,094
流動資産合計		2,723,591	2,903,529
非流動資産			
有形固定資産	7	775,957	810,150
のれん	7	2,446,063	2,654,306
無形資産	7	246,442	237,291
投資不動産		9,495	8,497
退職給付に係る資産		57,792	67,593
持分法で会計処理されている投資		56,943	54,017
その他の金融資産		140,366	158,379
繰延税金資産		91,430	80,595
非流動資産合計		3,824,487	4,070,826
資産合計		6,548,078	6,974,355

	前年度 (2022年12月31日)		当第2四半期 (2023年6月30日)	
	注記	百万円		百万円
負債及び資本				
負債				
流動負債				
営業債務及びその他の債務		540,089		481,857
社債及び借入金		137,308		136,250
未払法人所得税等		37,470		69,685
その他の金融負債		40,065		48,693
引当金		26,610		18,912
その他の流動負債		781,093		773,498
小計		1,562,635		1,528,895
売却目的で保有する資産に直接関連する負債		29		-
流動負債合計		1,562,664		1,528,895
非流動負債				
社債及び借入金		821,003		946,753
その他の金融負債		41,735		46,055
退職給付に係る負債		244,116		258,688
引当金		26,490		29,631
その他の非流動負債		195,248		172,683
繰延税金負債		40,061		41,932
非流動負債合計		1,368,653		1,495,742
負債合計		2,931,317		3,024,637
資本				
資本金		100,000		100,000
資本剰余金		736,400		736,400
自己株式		(490,183)		(489,722)
その他の資本の構成要素		104,309		343,723
利益剰余金		3,089,909		3,177,241
親会社の所有者に帰属する持分		3,540,435		3,867,642
非支配持分		76,326		82,075
資本合計		3,616,761		3,949,717
負債及び資本合計		6,548,078		6,974,355

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

(第2四半期累計期間)

	注記	前第2四半期	当第2四半期
		(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
		百万円	百万円
売上収益	5, 10	1, 266, 828	1, 392, 812
売上原価		(507, 869)	(563, 811)
売上総利益		758, 959	829, 001
その他の営業収益	11	7, 881	9, 046
持分法による投資利益		3, 623	3, 554
販売費及び一般管理費等	12	(387, 491)	(428, 046)
営業利益	5	382, 972	413, 555
金融収益	13	9, 886	16, 994
金融費用	13	(31, 873)	(57, 119)
税引前四半期利益		360, 985	373, 430
法人所得税費用		(95, 981)	(84, 967)
四半期利益		265, 004	288, 462
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		264, 063	287, 009
非支配持分		940	1, 453
四半期利益		265, 004	288, 462
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	14	148.80	161.70
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	14	148.74	161.65

営業利益から調整後営業利益への調整表

	注記	前第2四半期	当第2四半期
		(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
		百万円	百万円
営業利益		382, 972	413, 555
買収に伴い生じた無形資産に係る償却費		34, 799	30, 539
調整項目(収益)		(6, 128)	(3, 451)
調整項目(費用)		3, 208	2, 188
調整後営業利益	5	414, 851	442, 832

(第2四半期会計期間)

	注記	前第2四半期	当第2四半期
		(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
		百万円	百万円
売上収益	5	685,323	727,534
売上原価		(276,589)	(301,479)
売上総利益		408,735	426,055
その他の営業収益		5,266	5,607
持分法による投資利益		2,807	2,255
販売費及び一般管理費等		(212,204)	(226,766)
営業利益	5	204,604	207,151
金融収益		4,735	9,511
金融費用		(23,054)	(26,378)
税引前四半期利益		186,285	190,284
法人所得税費用		(45,884)	(47,047)
四半期利益		140,402	143,237
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		139,953	142,325
非支配持分		448	911
四半期利益		140,402	143,237
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	14	78.86	80.18
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	14	78.83	80.16

営業利益から調整後営業利益への調整表

	注記	前第2四半期	当第2四半期
		(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
		百万円	百万円
営業利益		204,604	207,151
買収に伴い生じた無形資産に係る償却費		18,532	15,471
調整項目(収益)		(4,986)	(3,445)
調整項目(費用)		1,820	287
調整後営業利益	5	219,970	219,465

(3) 【要約四半期連結包括利益計算書】
(第2四半期累計期間)

	注記	前第2四半期	当第2四半期
		(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
		百万円	百万円
四半期利益		265,004	288,462
その他の包括利益			
純損益に振り替えられない項目			
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動		1,038	2,196
確定給付型退職給付制度の再測定額		39,052	-
純損益に振り替えられない項目の合計		40,090	2,196
後に純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		692,333	245,760
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の 有効部分		5,474	(1,206)
後に純損益に振り替えられる可能性のある項目の合計		697,807	244,554
税引後その他の包括利益		737,897	246,750
四半期包括利益		1,002,901	535,212
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		1,000,768	529,343
非支配持分		2,133	5,869
四半期包括利益		1,002,901	535,212

(第2四半期会計期間)

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	注記 百万円	百万円
四半期利益	140,402	143,237
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目		
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動	619	1,064
確定給付型退職給付制度の再測定額	18,997	-
純損益に振り替えられない項目の合計	19,616	1,064
後に純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	607,728	219,242
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の 有効部分	4,585	1,358
後に純損益に振り替えられる可能性のある項目の合計	612,313	220,600
税引後その他の包括利益	631,929	221,664
四半期包括利益	772,330	364,901
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	771,099	362,621
非支配持分	1,231	2,280
四半期包括利益	772,330	364,901

(4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の資本の構成要素						
	資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外営業活動 体の換算差額	キャッシュ・ フロー・ヘッ ジの公正価値 の変動額の有 効部分	その他の包括 利益を通じて 測定する金融 資産の公正価 値の純変動
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年1月1日 残高	100,000	736,400	(490,899)	1,202	(408,175)	(274)	7,161
四半期利益	-	-	-	-	-	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	691,113	5,474	1,085
四半期包括利益	-	-	-	-	691,113	5,474	1,085
自己株式の取得	-	-	(1)	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	710	(196)	-	-	-
株式に基づく報酬取引	-	-	-	-	-	-	-
配当金	9	-	-	-	-	-	-
連結範囲の変動	-	-	-	-	-	-	-
支配の喪失とならない子 会社に対する所有者持分 の変動	-	-	-	-	-	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	(99)
その他の増減	-	-	-	-	-	(23)	-
所有者との取引額等合計	-	-	710	(196)	-	(23)	(99)
2022年6月30日 残高	100,000	736,400	(490,190)	1,005	282,937	5,177	8,147

親会社の所有者に帰属する持分

	その他の資本の構成要素				非支配持分	資本合計
	確定給付型退職給付制度の再測定額	合計	利益剰余金	合計		
	注記	百万円	百万円	百万円		
2022年1月1日 残高	-	(400,086)	2,863,843	2,809,258	76,823	2,886,081
四半期利益	-	-	264,063	264,063	940	265,004
その他の包括利益	39,033	736,705	-	736,705	1,192	737,897
四半期包括利益	39,033	736,705	264,063	1,000,768	2,133	1,002,901
自己株式の取得	-	-	-	(1)	-	(1)
自己株式の処分	-	(196)	(513)	0	-	0
株式に基づく報酬取引	-	-	230	230	21	251
配当金	9	-	(133,089)	(133,089)	(827)	(133,916)
連結範囲の変動	-	-	-	-	(664)	(664)
支配の喪失とならない子会社に対する所有者持分の変動	-	-	(0)	(0)	(0)	(0)
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	(39,033)	(39,132)	39,132	-	-	-
その他の増減	-	(23)	-	(23)	-	(23)
所有者との取引額等合計	(39,033)	(39,352)	(94,241)	(132,883)	(1,469)	(134,352)
2022年6月30日 残高	-	297,267	3,033,666	3,677,143	77,486	3,754,629

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の資本の構成要素						
	資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外営業活動 体の換算差額	キャッシュ・ フロー・ヘッ ジの公正価値 の変動額の有 効部分	その他の包括 利益を通じて 測定する金融 資産の公正価 値の純変動
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年1月1日 残高	100,000	736,400	(490,183)	1,001	85,796	8,546	8,966
四半期利益	-	-	-	-	-	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	241,554	(1,206)	1,986
四半期包括利益	-	-	-	-	241,554	(1,206)	1,986
自己株式の取得	-	-	(0)	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	462	(362)	-	-	-
株式に基づく報酬取引	-	-	-	-	-	-	-
配当金	9	-	-	-	-	-	-
連結範囲の変動	-	-	-	-	-	-	-
支配の喪失とならない子 会社に対する所有者持分 の変動	-	-	-	-	-	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	(708)
その他の増減	-	-	-	-	-	(1,850)	-
所有者との取引額等合計	-	-	462	(362)	-	(1,850)	(708)
2023年6月30日 残高	100,000	736,400	(489,722)	639	327,350	5,491	10,243

親会社の所有者に帰属する持分

	その他の資本の構成要素				非支配持分	資本合計
	確定給付型退職給付制度の再測定額	合計	利益剰余金	合計		
	注記	百万円	百万円	百万円		
2023年1月1日 残高	-	104,309	3,089,909	3,540,435	76,326	3,616,761
四半期利益	-	-	287,009	287,009	1,453	288,462
その他の包括利益	-	242,334	-	242,334	4,416	246,750
四半期包括利益	-	242,334	287,009	529,343	5,869	535,212
自己株式の取得	-	-	-	(0)	-	(0)
自己株式の処分	-	(362)	(99)	0	-	0
株式に基づく報酬取引	-	-	272	272	22	294
配当金	9	-	(200,558)	(200,558)	(1,514)	(202,072)
連結範囲の変動	-	-	-	-	(33)	(33)
支配の喪失とならない子会社に対する所有者持分の変動	-	-	0	0	1,406	1,406
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	-	(708)	708	-	-	-
その他の増減	-	(1,850)	-	(1,850)	-	(1,850)
所有者との取引額等合計	-	(2,920)	(199,677)	(202,136)	(120)	(202,256)
2023年6月30日 残高	-	343,723	3,177,241	3,867,642	82,075	3,949,717

(5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

注記	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	360,985	373,430
減価償却費及び償却費	97,042	86,328
減損損失	1,650	892
受取利息及び受取配当金	(9,816)	(16,708)
支払利息	14,048	14,203
持分法による投資損益(益)	(3,623)	(3,554)
有形固定資産、無形資産及び投資不動産除売却損益(益)	(4,251)	(3,275)
営業債権及びその他の債権の増減額(増加)	(17,222)	(54,543)
棚卸資産の増減額(増加)	(13,247)	(48,364)
営業債務及びその他の債務の増減額(減少)	(135,362)	(66,577)
退職給付に係る負債の増減額(減少)	(3,992)	(3,749)
前払たばこ税の増減額(増加)	78,122	13,480
未払たばこ税等の増減額(減少)	(113,966)	(33,189)
未払消費税等の増減額(減少)	12,364	17,963
その他	(81,972)	(6,107)
小計	180,759	270,229
利息及び配当金の受取額	9,859	16,627
利息の支払額	(12,869)	(13,131)
法人所得税等の支払額	(67,565)	(66,865)
営業活動によるキャッシュ・フロー	110,184	206,860
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資の取得による支出	(21,130)	(71,932)
投資の売却及び償還による収入	13,969	13,242
有形固定資産の取得による支出	(32,743)	(39,019)
投資不動産の売却による収入	4,526	4,092
無形資産の取得による支出	(7,882)	(11,914)
定期預金の払出による収入	1,252	-
関連会社株式の売却による収入	43	973
その他	3,128	1,907
投資活動によるキャッシュ・フロー	(38,837)	(102,651)

	注記	前第2四半期	当第2四半期
		(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
		百万円	百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー			
支払配当金	9	(133,060)	(200,491)
非支配持分への支払配当金		(805)	(1,537)
非支配持分からの払込みによる収入		20	412
短期借入金及び商業・ペーパーの増減額(減少)		(13,709)	(10,814)
長期借入による収入		88	2,899
長期借入金の返済による支出		(432)	(547)
社債の発行による収入	8	-	59,795
社債の償還による支出	8	-	(1,451)
リース負債の返済による支出		(10,255)	(11,553)
自己株式の取得による支出		(1)	(0)
非支配持分からの子会社持分取得による支出		(0)	(16)
その他		0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー		(158,153)	(163,303)
現金及び現金同等物の増減額(減少)		(86,806)	(59,093)
現金及び現金同等物の期首残高		721,731	866,885
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響		113,771	19,428
現金及び現金同等物の四半期末残高	6	748,696	827,220

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

日本たばこ産業株式会社（以下、当社）は、日本の会社法に従い、日本たばこ産業株式会社法に基づいて設立された株式会社であり、設立以来、日本に主な拠点を置いております。当社の登記されている本社及び主要な事業所の住所は、ウェブサイト（<https://www.jti.co.jp/>）で開示しております。

当社及びその子会社（以下、当社グループ）の2023年6月30日に終了する第2四半期の要約四半期連結財務諸表は、2023年7月31日に代表取締役社長 寺島 正道によって承認されております。

2. 作成の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2の「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、国際会計基準に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表はIAS第34号に準拠して作成しており、年度の連結財務諸表で要求される全ての情報を含んでおりません。要約四半期連結財務諸表は、2022年12月31日に終了した前年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

3. 重要性のある会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要性のある会計方針は、以下の項目を除き、前年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

また、当第2四半期の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。なお、当社及び一部の子会社は、当年度より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。

（会計方針の変更）

当社グループが当年度より適用している基準及び解釈指針は以下のとおりです。

	IFRS	新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	重要な（significant）会計方針に代わって重要性のある（material）会計方針を開示するための改訂
IAS第12号	法人所得税	国際的な税制改革-第2の柱モデルルールを導入するために制定又は実質的に制定された税法から生じる法人所得税の会計処理及び開示の要求事項に対する一時的な例外の導入

上記の基準等の適用が要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

なお、上記のうちIAS第12号においては、第2の柱モデルルールに関連する繰延税金資産及び繰延税金負債の認識及び開示を不要とする一時的な例外規定が設けられており、当社グループにおいて、当該例外規定を遡及して適用しております。

そのため、第2の柱モデルルールに関連する繰延税金資産及び繰延税金負債は認識しておりません。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、収益及び費用、資産及び負債の測定並びに四半期決算日現在の偶発事象の開示等に関する経営者の見積り及び仮定を含んでおります。これらの見積り及び仮定は過去の実績及び四半期決算日において合理的であると考えられる様々な要因等を勘案した経営者の最善の判断に基づいております。しかし、その性質上、将来において、これらの見積り及び仮定とは異なる結果となる可能性があります。

見積り及びその仮定は経営者により継続して見直されております。これらの見積り及び仮定の見直しによる影響は、その見積り及び仮定を見直した期間及びそれ以降の期間において認識しております。

当社グループの要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積り及び仮定は、原則として前年度と同様です。

なお、昨今のロシア・ウクライナ情勢については、現時点において会計上の見積り及び見積りを伴う判断に与える重要な影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

従来、当社グループは、たばこ製造機械の見積耐用年数を10～15年としておりましたが、事業環境変化を勘案し、一部のたばこ製造機械について、当年度から、より実態に即した経済的使用可能予測期間に基づく18年へ見直し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益は4,895百万円増加しております。

5. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定されております。

当社グループは主に製造たばこ、医薬品、加工食品を製造・販売しており、「たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の3つを報告セグメントとしております。

「たばこ事業」は、国内及び海外での製造たばこの製造・販売を行っております。「医薬事業」は、医療用医薬品の研究開発・製造・販売を行っております。「加工食品事業」は、冷凍・常温加工食品及び調味料等の製造・販売を行っております。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は、以下のとおりです。取締役会は、収益と調整後営業利益を検討のうえ、セグメント業績を評価し、経営資源の配分を決定しております。金融収益、金融費用、法人所得税費用はグループ本社で管理されるため、これらの収益・費用はセグメントの業績から除外しております。なお、セグメント間の取引は概ね市場実勢価格に基づいております。

(第2四半期累計期間)

前第2四半期(自2022年1月1日至2022年6月30日)

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益							
外部収益	1,152,960	39,300	73,461	1,265,721	1,107	—	1,266,828
セグメント間収益	138	—	0	138	6,209	(6,347)	—
収益合計	<u>1,153,098</u>	<u>39,300</u>	<u>73,461</u>	<u>1,265,859</u>	<u>7,315</u>	<u>(6,347)</u>	<u>1,266,828</u>
セグメント損益							
調整後営業利益(注1)	<u>425,117</u>	<u>4,865</u>	<u>1,450</u>	<u>431,432</u>	<u>(16,534)</u>	<u>(47)</u>	<u>414,851</u>

たばこ事業の外部収益のうち、自社たばこ製品売上収益は1,105,253百万円であり、自社たばこ製品売上収益と調整後営業利益のクラスター別の内訳は以下のとおりです。

	クラスター別			
	Asia	Western Europe	EMA	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
自社たばこ製品売上収益 (注2)	400,453	267,883	436,917	1,105,253
調整後営業利益(注1)	156,468	128,226	140,424	425,117

Asia: 日本を含むアジア全域

Western Europe: 西欧地域

EMA: アフリカ、中近東、東欧、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場

Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイタリア、英国、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

当第2四半期（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
売上収益							
外部収益	1,271,048	47,652	73,402	1,392,102	711	—	1,392,812
セグメント間収益	151	—	16	167	1,437	(1,604)	—
収益合計	<u>1,271,199</u>	<u>47,652</u>	<u>73,418</u>	<u>1,392,269</u>	<u>2,148</u>	<u>(1,604)</u>	<u>1,392,812</u>
セグメント損益							
調整後営業利益(注1)	<u>450,179</u>	<u>10,046</u>	<u>2,950</u>	<u>463,175</u>	<u>(20,361)</u>	<u>17</u>	<u>442,832</u>

たばこ事業の外部収益のうち、自社たばこ製品売上収益は1,217,196百万円であり、自社たばこ製品売上収益と調整後営業利益のクラスター別の内訳は以下のとおりです。

	クラスター別			
	Asia	Western Europe	EMA	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
自社たばこ製品売上収益 (注2)	392,593	302,951	521,652	1,217,196
調整後営業利益(注1)	145,152	137,867	167,160	450,179

Asia: 日本を含むアジア全域

Western Europe: 西欧地域

EMA: アフリカ、中近東、東欧、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場

Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイタリア、英国、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

調整後営業利益から税引前四半期利益への調整表

前第2四半期（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
調整後営業利益(注1)	425,117	4,865	1,450	431,432	(16,534)	(47)	414,851
買収に伴い生じた無形 資産に係る償却費	(34,799)	—	—	(34,799)	—	—	(34,799)
調整項目(収益)(注4)	1,241	—	4	1,245	4,884	—	6,128
調整項目(費用)(注5)	(1,223)	—	(1,037)	(2,260)	(948)	—	(3,208)
営業利益(損失)	390,336	4,865	416	395,618	(12,599)	(47)	382,972
金融収益							9,886
金融費用							(31,873)
税引前四半期利益							360,985

当第2四半期（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
調整後営業利益(注1)	450,179	10,046	2,950	463,175	(20,361)	17	442,832
買収に伴い生じた無形 資産に係る償却費	(30,539)	—	—	(30,539)	—	—	(30,539)
調整項目(収益)(注4)	126	—	845	972	2,479	—	3,451
調整項目(費用)(注5)	(1,374)	—	(11)	(1,385)	(803)	—	(2,188)
営業利益(損失)	418,392	10,046	3,784	432,223	(18,684)	17	413,555
金融収益							16,994
金融費用							(57,119)
税引前四半期利益							373,430

- (注1) 調整後営業利益は、営業利益（損失）から買収に伴い生じた無形資産に係る償却費、調整項目（収益及び費用）を除外しております。
- (注2) 自社たばこ製品売上収益には、物流事業及び製造受託等に係る売上収益は含まれておりません。
- (注3) 「その他」には、不動産賃貸に係る事業活動等及び報告セグメントに帰属しない企業広報経費や本社コーポレート部門運営費等の本社経費が含まれております。
- (注4) 調整項目（収益）の主な内訳は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
リストラクチャリング収益	514	3,324
その他	5,614	126
調整項目(収益)	6,128	3,451

当第2四半期におけるリストラクチャリング収益は、主に不動産の処分に係る収益です。なお、リストラクチャリング収益は「11. その他の営業収益」に内訳を記載しております。前第2四半期におけるその他の調整項目（収益）は、主に不動産の処分に係る収益です。

- (注5) 調整項目（費用）の主な内訳は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
リストラクチャリング費用	3,178	2,139
その他	30	49
調整項目(費用)	3,208	2,188

リストラクチャリング費用は「売上原価」に前第2四半期125百万円、当第2四半期△247百万円、「販売費及び一般管理費等」に前第2四半期3,052百万円、当第2四半期2,386百万円含まれております。なお、「販売費及び一般管理費等」に含まれるリストラクチャリング費用は、「12. 販売費及び一般管理費等」に内訳を記載しております。

(第2四半期会計期間)

前第2四半期(自2022年4月1日至2022年6月30日)

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益							
外部収益	629,025	18,007	37,796	684,828	496	—	685,323
セグメント間収益	79	—	0	79	4,983	(5,062)	—
収益合計	<u>629,104</u>	<u>18,007</u>	<u>37,797</u>	<u>684,907</u>	<u>5,479</u>	<u>(5,062)</u>	<u>685,323</u>
セグメント損益							
調整後営業利益(注1)	<u>227,774</u>	<u>299</u>	<u>1,038</u>	<u>229,111</u>	<u>(9,131)</u>	<u>(10)</u>	<u>219,970</u>

たばこ事業の外部収益のうち、自社たばこ製品売上収益は603,216百万円であり、自社たばこ製品売上収益と調整後営業利益のクラスター別の内訳は以下のとおりです。

	クラスター別			
	Asia	Western Europe	EMA	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
自社たばこ製品売上収益 (注2)	207,528	142,683	253,005	603,216
調整後営業利益(注1)	80,744	67,015	80,014	227,774

Asia:日本を含むアジア全域

Western Europe:西欧地域

EMA:アフリカ、中近東、東欧、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場

Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイタリア、英国、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

当第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
売上収益							
外部収益	666,716	22,727	37,824	727,267	268	—	727,534
セグメント間収益	90	—	8	98	783	(881)	—
収益合計	<u>666,807</u>	<u>22,727</u>	<u>37,832</u>	<u>727,365</u>	<u>1,050</u>	<u>(881)</u>	<u>727,534</u>
セグメント損益							
調整後営業利益(注1)	<u>225,037</u>	<u>3,122</u>	<u>1,541</u>	<u>229,700</u>	<u>(10,244)</u>	<u>9</u>	<u>219,465</u>

たばこ事業の外部収益のうち、自社たばこ製品売上収益は638,126百万円であり、自社たばこ製品売上収益と調整後営業利益のクラスター別の内訳は以下のとおりです。

	クラスター別			
	Asia	Western Europe	EMA	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
自社たばこ製品売上収益 (注2)	196,441	162,464	279,221	638,126
調整後営業利益(注1)	69,309	73,131	82,597	225,037

Asia: 日本を含むアジア全域

Western Europe: 西欧地域

EMA: アフリカ、中近東、東欧、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場

Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイタリア、英国、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

調整後営業利益から税引前四半期利益への調整表

前第2四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
調整後営業利益(注1)	227,774	299	1,038	229,111	(9,131)	(10)	219,970
買収に伴い生じた無形 資産に係る償却費	(18,532)	—	—	(18,532)	—	—	(18,532)
調整項目(収益)(注4)	285	—	4	289	4,697	—	4,986
調整項目(費用)(注5)	(527)	—	(943)	(1,471)	(349)	—	(1,820)
営業利益(損失)	209,000	299	99	209,397	(4,784)	(10)	204,604
金融収益							4,735
金融費用							(23,054)
税引前四半期利益							186,285

当第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

	報告セグメント				その他 (注3)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
調整後営業利益(注1)	225,037	3,122	1,541	229,700	(10,244)	9	219,465
買収に伴い生じた無形 資産に係る償却費	(15,471)	—	—	(15,471)	—	—	(15,471)
調整項目(収益)(注4)	126	—	842	969	2,476	—	3,445
調整項目(費用)(注5)	(55)	—	86	31	(318)	—	(287)
営業利益(損失)	209,637	3,122	2,469	215,229	(8,087)	9	207,151
金融収益							9,511
金融費用							(26,378)
税引前四半期利益							190,284

- (注1) 調整後営業利益は、営業利益（損失）から買収に伴い生じた無形資産に係る償却費、調整項目（収益及び費用）を除外しております。
- (注2) 自社たばこ製品売上収益には、物流事業及び製造受託等に係る売上収益は含まれておりません。
- (注3) 「その他」には、不動産賃貸に係る事業活動等及び報告セグメントに帰属しない企業広報経費や本社コーポレート部門運営費等の本社経費が含まれております。
- (注4) 調整項目（収益）の主な内訳は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
リストラクチャリング収益	435	3,318
その他	4,551	126
調整項目(収益)	4,986	3,445

当第2四半期におけるリストラクチャリング収益は、主に不動産の処分に係る収益です。前第2四半期におけるその他の調整項目（収益）は、主に不動産の処分に係る収益です。

- (注5) 調整項目（費用）の主な内訳は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
リストラクチャリング費用	1,800	240
その他	20	47
調整項目(費用)	1,820	287

6. 現金及び現金同等物

当社グループのイラン子会社は、イランに対する国際的な制裁等のため同社によるイラン国外への資金の送金は困難な状況になっております。また、当社グループのカナダ子会社であるJTI-Macdonald Corp.（以下、JTI-Mac）は「Companies' Creditors Arrangement Act（企業債権者調整法）」の適用下にあり、通常の事業活動以外の資金の利用に一定の制限を受けております。当四半期末の「現金及び現金同等物」には、当社グループのイラン子会社及びJTI-Macが保有する現金及び現金同等物がそれぞれ97,691百万円、125,485百万円含まれております。

7. 有形固定資産、のれん及び無形資産

「有形固定資産」、「のれん」及び「無形資産」の帳簿価額の増減は、以下のとおりです。

	有形固定資産	のれん	無形資産
	百万円	百万円	百万円
帳簿価額			
2023年1月1日 残高	775,957	2,446,063	246,442
個別取得	43,113	—	13,604
投資不動産への振替	(6)	—	—
売却目的資産への振替	(1,428)	—	(1)
減価償却費又は償却費	(48,419)	—	(37,869)
減損損失	(859)	—	—
減損損失の戻入	274	—	—
売却又は処分	(1,555)	—	(165)
在外営業活動体の換算差額	43,332	208,242	15,431
その他の増減	(258)	—	(151)
2023年6月30日 残高	810,150	2,654,306	237,291

8. 社債

当第2四半期において、以下の社債を発行しております。

会社名	銘柄	発行年月日	帳簿価額	利率	担保	償還期限
			百万円	%		
当社	第15回 国内普通社債	2023年4月20日	10,000	0.713	あり	2030年4月19日
当社	第16回 国内普通社債	2023年4月20日	30,000	0.920	あり	2033年4月20日
当社	第17回 国内普通社債	2023年4月20日	20,000	1.630	あり	2043年4月20日

また、当第2四半期において、以下の社債の一部について買入を行っております。

会社名	銘柄	発行総額	買入元本	残存元本
		百万USD	百万USD	百万USD
JT International Financial Services B.V.	2028年満期 米ドル建普通社債	500	1	500
JT International Financial Services B.V.	2031年満期 米ドル建普通社債	625	12	613

9. 配当金

配当金の支払額は、以下のとおりです。

前第2四半期（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

	株式の種類	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
(決議)		百万円	円		
2022年3月23日 定時株主総会	普通株式	133,089	75	2021年12月31日	2022年3月24日

当第2四半期（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

	株式の種類	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
(決議)		百万円	円		
2023年3月24日 定時株主総会	普通株式	200,558	113	2022年12月31日	2023年3月27日

配当の効力発生日が翌四半期となるものは、以下のとおりです。

前第2四半期（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

	株式の種類	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
(決議)		百万円	円		
2022年7月29日 取締役会	普通株式	133,114	75	2022年6月30日	2022年9月1日

当第2四半期（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

	株式の種類	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
(決議)		百万円	円		
2023年7月31日 取締役会	普通株式	166,856	94	2023年6月30日	2023年9月1日

10. 売上収益

「売上収益」の分解は、以下のとおりです。なお、グループ会社間の内部取引控除後の金額で表示しております。

前第2四半期（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

	報告セグメント			その他	連結
	たばこ (注)	医薬	加工食品		
	百万円	百万円	百万円		
自社たばこ製品売上収益	1,105,253	—	—	—	1,105,253
その他	47,707	39,300	73,461	1,107	161,575
合計	<u>1,152,960</u>	<u>39,300</u>	<u>73,461</u>	<u>1,107</u>	<u>1,266,828</u>

当第2四半期（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

	報告セグメント			その他	連結
	たばこ (注)	医薬	加工食品		
	百万円	百万円	百万円		
自社たばこ製品売上収益	1,217,196	—	—	—	1,217,196
その他	53,852	47,652	73,402	711	175,616
合計	<u>1,271,048</u>	<u>47,652</u>	<u>73,402</u>	<u>711</u>	<u>1,392,812</u>

(注) たばこ事業の自社たばこ製品売上収益のうち、RRPに係る売上収益は前第2四半期において39,140百万円、当第2四半期において39,462百万円です。RRPは、喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品 (Reduced-Risk Products) を指しております。

11. その他の営業収益

「その他の営業収益」の内訳は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 売却益 (注)	5,602	3,981
その他 (注)	2,279	5,064
合計	7,881	9,046

(注) 各勘定に含まれるリストラクチャリング収益は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 売却益	509	3,304
その他	5	20
合計	514	3,324

12. 販売費及び一般管理費等

「販売費及び一般管理費等」の内訳は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
広告宣伝費	11,327	15,181
販売促進費	42,948	46,973
委託手数料(注)	32,673	37,669
従業員給付費用(注)	152,528	172,454
研究開発費	32,585	34,884
減価償却費及び償却費(注)	55,718	52,487
減損損失(金融資産の減損損失を除く)(注)	1,650	892
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 除売却損(注)	2,286	1,502
その他(注)	55,777	66,005
合計	387,491	428,046

(注) 各勘定に含まれるリストラクチャリング費用は、以下のとおりです。

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
従業員給付費用	37	1,080
減損損失(金融資産の減損損失を除く)	1,115	99
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 除売却損	1,462	717
その他	438	489
合計	3,052	2,386

13. 金融収益及び金融費用

「金融収益」及び「金融費用」の内訳は、以下のとおりです。

金融収益	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
受取配当金	394	392
受取利息	9,423	16,317
その他	69	285
合計	9,886	16,994

金融費用	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
支払利息	14,048	14,203
為替差損(注1)	3,404	35,509
従業員給付費用(注2)	1,576	2,507
正味貨幣持高に係る損失	10,688	2,886
その他	2,157	2,014
合計	31,873	57,119

(注1) 通貨デリバティブの評価損益は、為替差損に含めております。

(注2) 従業員給付費用は、従業員給付に関連する損益のうち、利息費用及び利息収益の純額です。

14. 1株当たり四半期利益
(第2四半期累計期間)

(1) 基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎

① 親会社の普通株主に帰属する利益

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
親会社の所有者に帰属する四半期利益	264,063	287,009
親会社の普通株主に帰属しない利益	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	264,063	287,009

② 期中平均普通株式数

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	千株	千株
期中平均普通株式数	1,774,645	1,774,988

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎

① 希薄化後の普通株主に帰属する利益

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	264,063	287,009
四半期利益調整額	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	264,063	287,009

② 希薄化後の期中平均普通株式数

	前第2四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
	千株	千株
期中平均普通株式数	1,774,645	1,774,988
新株予約権による普通株式増加数	654	477
希薄化後の期中平均普通株式数	1,775,299	1,775,465

(第2四半期会計期間)

(1) 基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎

① 親会社の普通株主に帰属する利益

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
親会社の所有者に帰属する四半期利益	139,953	142,325
親会社の普通株主に帰属しない利益	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	139,953	142,325

② 期中平均普通株式数

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	千株	千株
期中平均普通株式数	1,774,726	1,775,061

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎

① 希薄化後の普通株主に帰属する利益

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	百万円	百万円
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	139,953	142,325
四半期利益調整額	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	139,953	142,325

② 希薄化後の期中平均普通株式数

	前第2四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
	千株	千株
期中平均普通株式数	1,774,726	1,775,061
新株予約権による普通株式増加数	616	404
希薄化後の期中平均普通株式数	1,775,343	1,775,465

15. 金融商品

(金融商品の公正価値)

償却原価で測定される金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりです。

	前年度 (2022年12月31日)		当第2四半期 (2023年6月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
	百万円	百万円	百万円	百万円
長期借入金 (注)	157,249	156,294	162,196	162,557
社債 (注)	737,329	645,061	863,774	784,477

(注) 1年内返済及び償還予定の残高を含んでおります。

償却原価で測定する短期金融資産、短期金融負債については、公正価値は帳簿価額と近似しております。

長期借入金の公正価値については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当社グループが発行する社債の公正価値は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

- レベル1： 活発な市場における公表価格により測定された公正価値
- レベル2： レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値
- レベル3： 観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりです。

前年度 (2022年12月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
デリバティブ資産	—	24,285	—	24,285
株式	21,551	—	9,786	31,337
その他	579	6,721	12,522	19,822
合計	22,130	31,006	22,308	75,444
デリバティブ負債	—	20,990	—	20,990
合計	—	20,990	—	20,990

当第2四半期 (2023年6月30日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
デリバティブ資産	—	14,022	—	14,022
株式	22,654	—	11,268	33,922
その他	693	12,156	14,589	27,438
合計	23,348	26,178	25,857	75,382
デリバティブ負債	—	31,166	—	31,166
合計	—	31,166	—	31,166

16. コミットメント

決算日以降の有形固定資産の取得に係るコミットメントは、以下のとおりです。

	前年度 (2022年12月31日)	当第2四半期 (2023年6月30日)
	百万円	百万円
有形固定資産の取得	36,933	53,625

17. 偶発事象

四半期決算日において、前年度に係る連結財務諸表に記載した内容から重要な変更はありません。

18. 後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

2023年7月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………166,856百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………94円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2023年9月1日

(注) 2023年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年7月31日

日本たばこ産業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 丸地 肖幸

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石川 航史

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松下 陽一

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本たばこ産業株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本たばこ産業株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。